

手に手を



平成27年5月20日

第71号

発行 一般社団法人 西宮市手をつなぐ育成会
〒663-8241 西宮市津門大塚町1-47
TEL 0798(33)7713
FAX 0798(33)7743

第6回 知的障がい者・児 作品展

はばたくアート展

無限・MUGEN・∞



全体作品「気球にのって」

平成27年2月18日(水)～2月22日(日)まで、阪急西宮ガーデンズ ガーデンズホールにおいて『第6回はばたくアート展』を開催しました。

会場に知的障がい者・児の作品(絵画・習字・陶芸など)約113点を展示させていただいたところ、西宮近郊のほか、姫路、大阪、奈良など遠方からもご来場いただき、来場者は5日間で1350名になりました。

全体作品は、色とりどりの気球に思い思いの絵を描き、みんなの夢を乗せて大空に向かって飛んでいく様子を表現しました。

またロビーでは、育成会子弟が利用する西宮市の福祉事業所紹介パネルや、各事業所で製作した製品やパンフレットを置き、たくさんの方々に知っていただくことができ、アート展は大盛況の内に幕を閉じました。(関連記事をP6～P8に掲載)

一羊会と児童のサービス

社会福祉法人 一羊会
地域生活支援センター「ジョイント」
所長 古川 勝



成人の福祉を中心に行なってきた一羊会が「なぜ児童?」と思われる方も多いかと思います。その前に、一羊会が児童の分野に取り組んだことによってどのような効果があったのかということに触れたいと思います。

人は生まれてから死ぬまで様々なステージがあります。幼児期、児童期から、成人期を経て高齢期に至ります。

私たち職員は利用者の人生の一部分にしか関わることができませんが、でもそれはその人の過去も知った上での「かかわり」ですし、そして今の「かかわり」が将来に影響するものであるという認識が必要です。利用者の一生を考えて取り組むということは支援に一層の深みを与えると思います。

「発達」というと児童特有の表現と捉えがちですが、私は、人は一生発達すると考えています。人のかかわりが発達にも大きな影響を与えるのですが、障がいのある児童の場合はそこに専門性のある人たちがかかわる必要があります。一羊会で児童の事業を始めた時、まずは認知の専門家である心理士を雇わなければならぬと思いました。

専門家による検査や助言は、利用者のことを深く理解して支援を組み立て、提供するというプロセスを効率よく行うことができ、良い支援を早く提供できることになります。

そして、この手法は成人期の利用者にも大いに当てはまり、実際に児童をきっかけに配置した心理士が、今は成人利用者の検査も実施し、支援に役立てることができるようになりました。

そのような効果はある程度意識していたものもありますし、思っていた以上に具体的な成果があったとも思います。元に戻って、「なぜ、児童の分野に取り組んだか?」という問いには多くの理由があります。その中でも特に強く思うことをお伝えします。

事業所を利用し始めた利用者の中には、人とのやり取りがうまくできずにストレスを抱えていたり、自己肯定感が弱かったり、中には、自傷や他害の行動がある方がおられます。また、働き出してからそのような行為が出てくる利用者もおられます。大きな要因としては自分の思いをうまく伝えることができず、行き場を失い、そういった形でしか周りとのかかわりができなくなっているのです。本来的には児童期に育むべき内容であるのですが、実際には身についていない状態で成人になったということです。その結果、成人の事業所でそういった取り組みをすることになります。もちろんそれでも効果はありますが、やはり身につけるのに適切な時期というものがあると思います。適切な時期から取り組めれば、成人期はさらに上の目標が持てると思いました。児童期を大切に扱うことで良い成人期を迎えることができる。その為には児童の分野に取り組む必要があったからです。

一羊会が児童の事業に取り組んで5年になりました。コミュニケーションと自己肯定感を大切にして取り組んでいます。目標はあっても、まだ道半ばです。今年は5年間の総括を踏まえ、より事業の質を高めていく年だと思っています。

平成24年に児童デイサービスが児童福祉法に移り、名称も変わり、3つの事業となりました。一羊会ではその3つの事業をしています。まずは事業の紹介をします。

①放課後等デイサービス

『学校通学中の障害児が、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供することにより、学校教育と相まって障害児の自立を促進するとともに、放課後等の居場所づくりを行う。』という事業で、対象は小、中、高校に就学している障害のある児童です。

②児童発達支援

『地域の障害のある児童を通して、日常生活における基本的動作の指導、自活に必要な知識や技能の付与または集団生活への適応のための訓練を行う』という事業で対象は障害のある未就学の児童や児童相談所、市町村保健センター、医師等により療育の必要性が認められた児童です。

③保育所等訪問支援事業

『集団生活になじめるよう、訪問支援員が、保育所や学校などを2週間に1回程度訪問し、障害児や保育所などのスタッフに対し、集団生活に適応するための支援を行う。』という事業で対象は保育所、幼稚園、小学校などに在籍している障害のある児童です。

一羊会ではカノンという名のつく事業所を3か所で行っています。

カノン(放課後等デイサービス)

○活動内容

運動や音楽、創作活動を通し、友達を意識しながら、集団でのルールやマナーの学習を目標に個別指導プログラムを策定し、取り組みます。あつまりの会、個別活動・集団活動、掃除、おわりの会
夏休みには買い物・クッキング・プール等

対象：小中学生



○一日の流れ

平日 下校後～17：30 休日 10：00～17：30

カノン今津(児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援)

○活動内容

未就学児・小学生を対象として最長2年の期間で1クラス3～4名程度の少人数制での療育を実施します。発達検査の結果や保護者の方との面談をもとに、個別に課題を設定し療育を行います。

対象：未就学児、小学生



○一日の流れ

①午前10：15～11：25 ②午後14：15～15：25 ③16：00～17：10

※保育所等訪問支援…保育所や学校等集団での活動場面に伺い、支援の方法を助言します。

カノン上甲子園

○活動内容

運動や創作活動を通し、友達を意識しながら、集団でのルールやマナーを学習していきます。職業体験を通して卒業後の職業選択に向けた準備を行います。

対象：高校生



○一日の流れ

平日 下校後～17：30 夏休み 13：00～17：30

(一羊会ホームページより)

サニースポット～5年後、10年後を見据えて～

社会福祉法人一羊会
「すずかけ作業所」
主任 松永 康司



知的障がいというハンディーキャップを持ちながらも、皆さんには、たくましく仕事を頑張ってこられました。今まで「就労支援」にポイントを置いていた支援も近年、全国的に「高齢者支援」という新たな課題を抱える事業所が増えています。

当法人も例外ではなく、平均年齢は上がっており、実際に現場レベルで問題に直面しているケースもあります。

一羊会では部会を設置し、来るべき時に備え、ハード面やソフト面においてどのような工夫が出来るか、また何が必要かなどを検討しています。

介護保険事業所の見学や勉強会をすることで、知識の積み上げも行っているところです。

ただ、前述の通り「現在直面している問題」が既にあり、それがすずかけ作業所の中にあったということが、サニースポットの設立へと繋がっています。

就労支援と生活支援…ニーズは混在し、明確な線引きが出来ない状況でした。

一般的に、我々であれば定年を迎えることがある一定のラインになり、その後の人生は楽しみや生きがいをより追求した生き方や、のんびり趣味にふけるような生き方をするなど様々です。しかし、作業所には定年という線引きがない為、時には個々の状態を周囲が判断して、次のステージへと導くことも必要な場合があると考えています。

その考え方を形にしたものがサニースポットであり、日々の支援の中で、次のステージが豊かで充実したものとなるよう、試行錯誤しながら実践しているところです。

サニースポットでの活動プログラムは、デイの月刊誌や見学に行った先で取り組んでいたこと等を参考にして構成しています。手先を使った活動や身体機能維持を目的とした活動などを中心に、みなさん活き活きと取り組まれています。

ただ、仕事をその人から取り上げてしまう訳ではなく、それが必要な方には、部分的にでも仕事に携わってもらう（個々のニーズに合わせて）柔軟さは持ち合わせておかなければならぬと思っています。

今後の高齢知的障がい者に対する支援は、まだまだ不透明な部分も多く、明確なビジョンを描き出すことが出来ませんが、サニースポットのような機能を持つ場所は、更に必要性を増していく、その内容も問われてくると思います。

老化は、誰にでも例外なく訪れ、待ってくれません。その状態を迎えた時に、当事者の方が不安を感じることなく利用できるサービスを準備していくことが急がれます。

これからもサニースポットでは、「豊かな人生とは何か」というテーマを念頭に置き、みなさんが笑顔で安心して過ごせる場所づくりを目指していきます。



成人研修会

『京都ライフサポート協会 横手通り43番地「庵」見学』

京都ライフサポート協会は「どのような困難な障がい状況にある人も、必ずその人らしく生き生きと暮らすことができる。適切に環境を整え、一人一人にあった具体的方法論を見出すのが、支援者の役割であり、専門性である。」を基本理念とし、理事長 橋口幸雄氏を中心として、ユニットケア、職住分離、徹底した環境支援に取り組んでこられました。



ケアホーム『あん'ず三山木』

2002年4月に横手通り43番地「庵」を、京都府木津川市山城町に、ユニット型入所施設として開設。5~7名の利用者グループを1ユニットとして、個室、リビングルーム、キッチン、浴室などを備えています。施設敷地内に7ユニットが点在し、お風呂屋風の露天風呂の建物もあり、どこにでもある、街角の風情を取り入れています。

また、日中活動の場を地域に3か所設け、職住分離を図っています。

ケアホーム4か所がJRの駅付近にあり、計29人が暮らしています。各ケアホームの職員は、新人ではなく「庵」で働いている職員から選んで配置し、基本理念を大切にした支援ができるように配慮しています。開設前後は地域からの苦情もあったので、職員が地域の活動に参加したり、施設内で月に一回カフェを開いたりして、地域に溶け込むよう努力しているそうです。



レストラン『庵樹』

2011年5月にレストラン「庵樹」を開設。川沿いに佇むスタイリッシュな建物で、福祉施設のイメージが全くありません。銀座の有名店で23年修業したシェフを迎え、多機能事業所 工房「あんじゅ」の一部門としてスタートしました。

工房「あんじゅ」では、障がい者39名が多様な働き方をしています。

- ・レストラン事業では、ホールサービス（接客、レジ係等）、調理補助、事務、環境整備、リネン業務など。
- ・パン工房では、パン作りやスイーツの販売。
- ・農園事業では、有機米作り、有機野菜作りや販売、花の栽培、筍水煮づくり、ジャム作りなど。
- ・ランチサービス業務では、工房利用者対象のランチ作り、スープカレー等レトルト食品製造。
- ・あんねっと事業では、法人内事業所の消耗品発注管理配達など。



かわいいくまさんのお出迎え♡

見学の時、このレストランで、おしゃれなフレンチのランチを頂きながら、「このような所が西宮にもあればいいのにね」と参加者たちで話しました。



はば
アー
～無限・MU

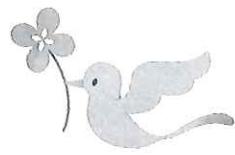




開催にあたって社会福祉
法人 丸紅基金より助成金
をいただきました。
「ありがとうございました！」



第6回はばたくアート展 アンケートより



- 作品を見せていただく間に心が和みました。暖かいものが全身を流れるようです。天井から吊られた気球は揺れ方がなんともいえない感じでした。
- どの作品もいきいきして、それぞれの個性がありすばらしかったです。展示も見やすくいろいろ工夫を感じられました。
- どのように作っていかれたのか、その過程を知りたい作品がいくつかありました。また見に来たいです。
- 斬新な絵だったり、自分ではマネできないような作品があって、見に来た甲斐がありました。
- 個性豊かな作品を見て、作者の何かチカラを感じました。アート展、これからも続けて行ってほしいです。
- 第5回に比べて絵画の点数も増えて、ゆっくりと鑑賞させていただきました。力強い絵あり、やしさや温かさを感じさせてくれる絵あり、個性豊かな人たちの思いが伝わってきます。
- すばらしいエネルギー、力強さを感じました。買いたいと思った絵もありました。平面の絵だけではなく色々な表現があるのも楽しかった！
- カラフルで、作品の方から目に飛び込んで来るようでした。
- 皆さんの作品の特徴として、幾重にも色を使っていることが印象に残りました。ラフなタッチからソフトなタッチ、繊細な作品が多数あり、純粹に鑑賞を楽しむことができました。
- 新聞を読み、是非と思いやってまいりました。素敵なアート展でした。子どもたちとお世話をされている方々の楽しそうな様子を想像して、来て良かった！色がきれいですね！
- 今まで気づかなかったことに、あーそうだったんだと気づかされたような、癒しのアートだと思いました。もっと見てもらえる機会がふえるといいですね。
- 個性が光る作品が多く、また非常に細かい作業が多いのにおどろきました。作者はこういう色彩を社会から感じているのだとあらためて感じました。それぞれの作品紹介に、年齢・使用した画材等つけられてみては？
- 引き込まれました。彼らからいただいた不思議なエネルギーにありがとうございますと言いたいです。
- 一人ひとりの個性がはっきりと見えて、とても楽しかったです。特に同じしゃぼん玉を描いているのに、一人ひとり全然違っておもしろいなと思いました。
- 一つ一つの作品に、心を込めてかく作者の表情が見えるようです。思いが伝わってくるような気がします。



障がいのある人たちが、日中どのような所で支援を受けながら働いているのか、ご来場の皆さんにご紹介しました。

オープンセミナー**『ともに育ち、ともに生きる』**

日々の生活の中で起こる小さなトラブル、発達やコミュニケーションに悩む方々への情報提供の場として、今年度も3回のオープンセミナーを開催しました。

第1回 「卒業後の学びの場づくりと自立支援」～エコールK O B Eの挑戦～

日 時 平成26年9月12日

参加者 70名（一般48名、会員22名）

講 師 福祉事業型「専攻科」エコールK O B E

学園長 河南 勝 氏



エコールK O B Eは、今まで高等部卒業後は就職か福祉事業所しか選べなかった子ども達の「もっと勉強がしたい」「大学へ行きたい」という願いや、親の「もっといろいろな体験をさせたい」という願いを実現するため2011年に設立されました。在学期間は2年です。パソコンの授業やダンスの授業も取り入れ多彩な活動をされています。

アンケート結果

- *子どもの将来への道が“1つだけ”ではないということ、これからどんな事を身に付けていくことが良いのかというのが分かり易く、目標が見えてきた。親としての子どもへの“見方”を見直す、考え直すことが必要であり、大事なことと思った。
- *子どもの成長につれて将来に対する不安も大きくなってきました。エコールK O B Eの取り組みを聞いて選択肢は1つではないことも分かり、勉強になりました。
- *縦の成長も大事だけれど、横を豊かに広げることも大事。自分の参考にもなりました。
- *高等部を出たら、就職しないといけないと思っていたので、また学べる場所があることがわかりうれしかった。
- *夢が持てた。

第2回 「発達障害の世界を理解する」

日 時 平成26年11月13日

参加者 84名（一般58名、会員26名）

講 師 武庫川女子大学 文学部心理・社会福祉学科 教授 石川 道子 氏

発達障害は早めの診断が大切で、その後の支援につなげ、生涯にわたる支援を継続することが重要になってきます。本人のことを理解して連続支援できる体制を取り続けるには、家族は「健康で長生きすること」「100%の力を出しきらず、50%の力でマラソンのように持続すること」が必要です。本人から助けを求めるシグナルを見逃さず見守り、助けの必要を感じたらこちらから手を差し伸べることも大事です。

アンケート結果

- *なるほどと思えることばかりだったので、息子との接し方のレパートリーが増えたように思います。
- *具体的な声かけや対応などが聞けて参考になりました。
- *具体例も入れて話していただき、すごくわかりやすかったです。自分が正しいと思っていた事が間違ったことであったのが、今回のセミナーでわかりました。
- *自分の子どもにあてはまることがとても多かったです。なかなか子どもの世界を理解することができなかつたので、パニックを起こしやすい行動をとってしまっていました。理解し実践していきたいです。



第3回 『生きづらさを抱える子ども達の理解と支援』～発達障害を中心に～

日 時 平成27年2月12日

参加者 74名（一般47名、会員27名）

講 師 プール学院大学 教育学部教育学科 准教授 松久 真実氏



発達障害の人は、見る力、聞く力が弱いので、何度も注意しても忘れたり、本を読みながらするために学習面での困難さを持ちます。また、こだわりがあり、その場の雰囲気を読めなかったり、思ったことをすぐに口に出したり、友達とトラブルになるという行動面での困難さも持ります。支援の方法としては、一度に多くのことをさせるのではなく、スマールステップで支援をしていくのが有効です。できそうな範囲で目標を持ち、できたことをほめまくる。というステップを繰り返していくことが大切です。支援者は、「見方を変えて味方になる。」「この子は宝物やと思ってください。」という先生の言葉が心に残りました。

アンケート結果

- *子どもが、日々どんな感覚で生活しているのかがよく分かった。支援のしかたのポイントがよく分かった。
- *話がとても分かりやすかったです。子どもの困っていること、なぜこうなるのか？自分でも探りながら育てているつもりでいましたが、先生のお話は、発達障がいの困り感をすごく想像しやすく、具体的な例えが多かったので「なるほど！」と思うところや、「こんな事に気を付けてみよう！」など、発見がとても多かったです。
- *障がいがある子のしんどさを、自分の感覚に置き換えて想像できるような例え話が多く、とても参考になりました。息子も視覚支援、見通しを持たせることができますが、それがなぜなのか、どういう分かりやすさがあるのかが分かりました。「宝物」と息子に言ってみます。
- *最後の先生からのメッセージには、じ~んときてしまいました。がんばります。

おめでとうございます

兵庫県知事表彰



平成26年11月14日 兵庫県福祉大会において、平野 愛さんが、兵庫県知事表彰を受けられました。この賞は、障がいを克服し、社会人として模範になる方へ贈られるものです。

平野 愛さん
社会福祉法人 阪神共同保育会
浜つばめ保育園



知的障害者就労表彰



平成26年11月29日 兵庫県障害者福祉大会において、阪井 達也さんが、一般企業で10年以上就労されたことにより、10年の就労表彰を受けられました。

阪井 達也さん
一般社団法人
西宮高齢者事業団



西宮市民体育賞 「くすのき」



今村西宮市長と記念撮影

平成27年2月24日 西宮市民体育賞「くすのき」表彰式において、阪井 勇貴さん、福嶋 貴時さんが、スペシャルオリンピックス ナショナルゲーム 福岡大会において活躍されたので、西宮市民体育賞「くすのき」を受賞されました。

阪井 勇貴さん
上甲子園ブランチ所属
テニス競技 銅メダル

福嶋 貴時さん
名神あけぼの園所属
ボウリング競技 銀メダル

西宮ミュージックセッション2015

1月25日（日）西宮市総合福祉センター体育室にて『西宮ミュージックセッション 2015 みんなで叩く！みんなで歌う！イエイ!!』と題してライブを開催しました。

出演は、かしわ哲さんと梶原徹也さん（元ブルーハーツのドラマ）によるミニサルサガムテープ、鳴尾スーパーつっかけすずむしバンド、ゆうきっこエンジェルです。



「すずむしバンド!! イエイ!!」



「友だち 製作中…」



「Are you ready !!」

参加人数は、200名（会員・家族90名、出演者・スタッフ30名、一般80名）でした。

梶原さんのガムテープ太鼓づくりのワークショップもありました。ライブに合わせて太鼓を叩いたり、歌ったり踊ったり、みんなで大いに盛り上りました。

～贊助のお願い～

当会は、知的障がい児者がその人らしく生きていくための一助になることを願って様々な活動をしています。ぜひ賛助会員としてご支援くださいますようお願い申し上げます。

- ・年会費：1口 2,000円
- ・口座番号：00940-9-19101(ゆうちょ)
- ・口座名義：一般社団法人
西宮市手をつなぐ育成会

お詫び

・「手に手を」第70号 ご寄付者に2名の方のお名前が抜けていました。
橋実千代様 古川勝様

・同号 賛助会員のお名前が間違っていました。
正しくは、佐竹基宏様です。
訂正し、お詫び申し上げます。

編集後記

たくさんの感動を与えてくれた「はばたくアート展」広報部一同もあたたかな気持ちで編集に取り組み第71号が完成しました。お忙しい中、ご寄稿いただきました皆様、ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。